

■二輪車販売の実務と情報

ヤマハニュース

YAMAHA NEWS NO.124 '73

10

OCT.



カラー

'74ヤマハスノーモビル

いよいよ日本列島は、たけなわの秋。

読書の秋、味覚の秋、スポーツの秋、なんにつけても一年中てもっとも爽快な季節です。

しかし、お店のお客さまには、なんといつでも、SL・スポーツレジャーの秋でしょう。

錦の自然を求めて、紅葉狩りのツーリングなどは最高。

また、あくまでも澄みわたった秋空のもと全国各地のトレールランドでは、終盤戦に入ったトレール杯争奪モトクロス選手権シリーズの最後の熱戦がつづき、若いプロックチャンピオンが、つぎつぎに誕生していきます。

そして、十月二〇日、三十一日には日本グランプリロードレース大会、下旬からは注目の東京モーターショーと、秋の恒例行事がことしもつづき、お客さまも活発に走り込む予定です。

爽やかな秋、爽やかな気分でご商売を

〔表紙〕第二回YGSFでべールを脱いだYZR750と金谷秀夫選手〕

- 1 月
- 2 火
- 3 水
- 4 木
- 5 金
- 6 土
- 7 日
- 8 月
- 9 火
- 10 水
- 11 木
- 12 金
- 13 土
- 14 日
- 15 月
- 16 火
- 17 水
- 18 木
- 19 金
- 20 土
- 21 日
- 22 月
- 23 火
- 24 水
- 25 木
- 26 金
- 27 土
- 28 日
- 29 月
- 30 火
- 31 水

▶競技会	▶会場	▶主催	▶連絡先
TCMS 関東ブロック大会	富士スピードウェイ	ヤマハ発動機東京支店	03(572)2021
TCMS 三重第5戦	トレールランド津	第一自動車㈱	0593(31)7321
TCMS 関西第6戦	未定	ヤマハ発動機大阪支店	06(538)7331
TCMS 九州ブロック大会	トレールランド星野	ヤマハ発動機九州支店	092(41)3606
TCMS 岐阜第5戦	各務原特設コース	ヤマハ発動機岐阜営業所	0582(72)2110
TCMS 北陸第5戦	トレールランド金沢	ヤマハ北陸	0762(51)1161
TCMS 浜松第5戦	伊佐地特設コース	ヤマハ浜松	0534(54)8411
TCMS 東北ブロック大会	仙台テクニカルハイランド	ヤマハ発動機仙台支店	0222(94)6121
TCMS 四国ブロック大会	トレールランド高松	ヤマハ発動機四国支店	0878(31)1661

〔スケジュールは天候その他の事由で変更になることもあります。事前に連絡先にお問合わせください。〕

●YGSFフォトコンテストの発表は、応募者多数につき11月号に延期いたします。ご了承ください。

●ヤマハ発動機株式会社

〒436 静岡県磐田市新貝2500番地 ☎05383(2)1111(大代)

●北海道ヤマハ

〒063 札幌市西区24軒1条7丁目5番 ☎011(641)2711

●仙台支店

〒983 仙台市日の出町3丁目8-36 ☎0222(94)6121-8

●東京支店

〒104 東京都中央区銀座8丁目9-13銀座オリエンタルビル ☎03(572)2021

●名古屋支店

〒462 名古屋市北区は本通2丁目34 ☎052(1)113(2)121

●大阪支店

〒950 大阪市西区北堀江通4の27 ☎06(538)7331

●四国支店

〒760 高松市松島町3丁目22の9 ☎0878(31)1661

●九州支店

〒812 福岡市博多区博多駅前中央街8丁目36博多ビル ☎092(41)3606

●広島支店

〒734 広島市東区町3丁目16の8 ☎0822(82)4111

女ひとり 免許をとって3ヵ月

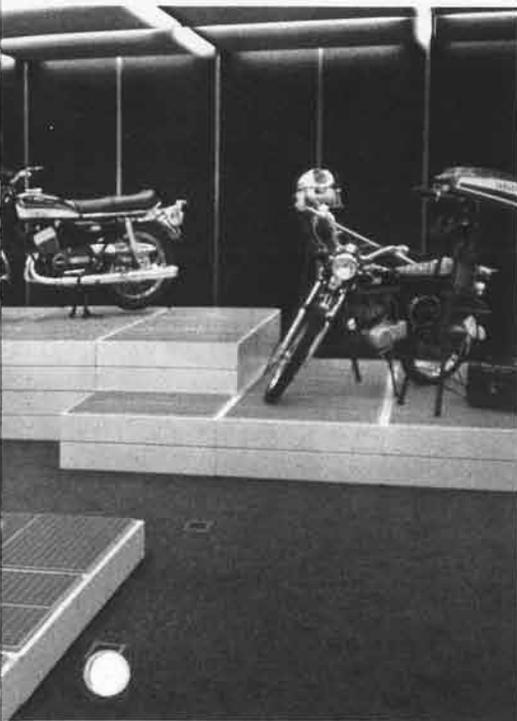
ヨーロッパ走りある記

佐納たかこ

免許をとって3ヵ月、オートバイの運転は生れて初めてという女性が、単身ヨーロッパをめざしてスタートしました。オランダをふりだしに、ヨーロッパ大陸を延べ28ヵ国、計画では18,513キロを4ヵ月で走ろうというものです。

話題の女性は、東京生れ、ことし34才の佐納たかこさんです。愛車は「ヤマハスポーツRD350」。走りやすさ、取扱いやすさで選ばれたものです。折から秋たけなわの季節。お店のお客さまのツーリング熱はいかがですか。どうぞ、このユニークなニュースをお客さま方にお話してください。





— N V のショールーム。ヤマハ船外機も見える。



アムステルダムの市内で見かけた R T 360

にわか仕込みの腕前だけど さあ、何んでも見てやろう

このオートバイ旅行の目的は、ひと口で言えど、何んでも見てやろう」という、持ち前の好奇心を満足させるためのもの、といえそうです。しかも、限られた時間内で、出来るだけ多くの国を、出来るかぎり安く——という条件付きで。

そこで、もともと手軽な、経済的な乗物として、私はちゅうちよなくオートバイを選んでわけですが、正直のところ、オートバイに乗りだすまでは、それはそれはたいへんな苦労をしいられたものでした。

なぜって、いままでの私にとってオートバイはまったく無縁のものだったからです。教習所での運転技術の習得、免許試験はよいとして、それですべてがOKというものではありません。交通の流れにのって、交通標識を読みとりながら目的地向う、ただそれだけのことに、いかに多くの制約があることか。それをまったく知らなかったからです。

オートバイぐらいすぐに乗りだせる、とかをくくっていた私にとって、すべてが新しい驚きのうちにタイム・リミット、それでもわか仕込みのライディングで、三月の免許取得から六月の出発までに、東京—大阪の東名・名神を含めて三千五〇〇キロほど走破して、異国の地に立ったのでした。

ありがとうヤマハさん でも、心細い旅立

このオートバイ旅行のスタート地点をオランダのアムステルダムにしたのは、ここは私の選んだヤマハのヨーロッパ支店ともいう

べきヤマハモーターN Vがおかれているからにほかなりません。

ヤマハ関係者の方がたの親切なアドバイスをはじめ、私のこのアドベンチャー・ツーリングに対するみなさんの好意は、ちよつと口ではいいあらわせないほどで、私はただただ感謝の気持ちでいっぱいなのです。それだけに、ぜひともこのアドベンチャー・ツーリングを成功させなければなりません。

先に空輸しておいた荷物を受取って、たいへんお世話になったヤマハモーターN Vのみなさんに出発のあいさつ、まずはドイツに向けて出発したのは六月二十八日のことでした。この日はあいにく朝から雨。これからの前途多難を思わせるかの雨に、ちよつと気負いをくじかれた感じでしたが、私の親愛なるインストラクター、ルデイ氏が「こんな雨ぐらいで予定を変更するくらいなら、四カ月もの長旅をする資格がない。今すぐ日本へ帰りなさい！」の厳しいお小言で車上の人となったのでした。ルデイ氏は途中まで私の先導役を

かってくれたのですが、ものの一キロも走らないうちに、ショボショボの雨がザーツとなり、加えてピカッ、ゴロゴロ！ 先をゆくずぶぬれのルデイ氏をおいて、よっぽど逃げて返ってこようかと思つたくらいでした。

途中、ガソリンスタンドで燃料、オイルを満パイ。ますます激しくなる雨足を見つめていた私に、ルデイ氏いわく「たかこさん、ぜつたい途中で引返してきちゃいけないよ。そんなことをしたらみんなの失笑をかうだけだから……。オランダ人はみんな歯をくいしばって頑張ることを誇りにしているんだ。いいかい？」このときのルデイ氏が、なんと大きく、威厳に満ちていたことが。



異郷のみなさんの暖かい歓送をうけて、さあ出発！



広々としたヤマハモーター

でも、考えてみれば自分でいいだしておきながらなんで今さら引返せましようか。それに第一、日本でも、またヨーロッパに来てからも多くの方がたの絶大な励ましをいただいでここまでこぎつけたというのに。さらにまた女だからって、このひどい雨の中のモーターウェイまでエスコートしてもらっておいでオモメ帰れましようか。

「オーケー、ガンバルわ!! 本当に本当にありがとう!!」 固く握手を交わして再び雨の中へ出発。そこから二、三キロ先の出口で投げキッスを送ってくれたルデイ氏と別れていよいよ一人ぼっちの旅は始まったのです。

ああ前途多難

早くも初ころび

およそ一五〇キロも走ったでしょうか。雨はいつしか小降りになっていたので、どうやら道を間違えた様子。地図で確かめてみますと、あらぬ方向へ二十キロも来ているではありませんか!

エンジンを停めて、いったん降りてから危なっかしく凸凹のレンガだたみをどうにか半回転させて、もと来た道へいざ出発! ブーンとエンジンをかけて。ところが——、ところがですよ、次の瞬間、私はカエルのごとく雨の舗道へぺチャン!!と、四つん這いになって投げ出されていたではありませんか!

これ一体どうなってるの? 私、まだギヤをローに入れ替えただけっていうのに……。それにしてもヒザツ小僧の痛いなんの。でもここで頑張らなくっちゃ。道行く人が四、五人、軒下に身体を寄せて遠巻きに見ているけれど、だれ一人手伝ってくれようとはしない(たぶんヘルメットをとって、女である

ことを証明すれば話は別なんでしょうけど。口惜しいからそんなばかばかしいことするもんですか!!)。

ドッコイショ! 不思議なことに、私が初めて積んだ重い荷物ともども、マシンはすんなり起きあがってくれたのです。ありがとさん、RDクン。これでまずは一安心。

でも、でも痛いなんの、さっきのヒザツ小僧。ズッキン、ズッキン、ひよつとして、骨にヒビでも入ったんじゃないかしら?

身にしてみる

異郷の人びとの親切

出発そうそいういやるなるナー、もう! でも、でも、ガンバラナクツチャ! 鼻歌なんぞ歌いながら、やってまいりましたのはヘンゲロという片田舎。

このあたりで降りつづいた雨もあがり、ホッと一息。このままつづいて走って、せめてドイツの国境近くまで行くべきか。「そうよ、こんなところでヘコたれてたんじゃ、女がするつてもものよ!! 行きましよう、せめて、あと一〇〇キロか、一五〇キロは——」

出発が午後一時と遅かったので、すでに時計は五時三十分をまわっています。でも、元氣をつけてキックを踏んだのです。が、駄目なんです。エンジンはブンともいってくれなのです。いやーッ、困った。

この原因はあとで分かったことですが、点火プラグの選定の誤りでした。モーターウェイ用に、高熱価の8HSを取付けてくれたのにこの私ときたら、三二〇〇—三五〇〇回転、八〇キロ/時ぐらいで走ってきたのです。

たまたま通りかかった部長クラスのお巡りさんと呼ばれて応援の依頼。しかし、エン



チェーン調整してくれるライダー仲間たち



カタコトの英語で、プラグのトラブルを助けてくれたヤングと

ジンはさっぱり息を吹き返してくれませぬ。上役の困り果てた姿を見かけて、今度は若いハンサムなお巡りさんが車でかけつけてきて、二人でああでもなし、こうでもなし。ところが、あちらは英語がかいもく分からず、こちらはオランダ語がチンパンカンパンときています。そのうち見物人は増えるっぽう。ようやく身ぶり手ぶりで、近くのガソリンスタンドに運んでもらうことに成功したのです。しかもスタンドマンに何かいい、ご丁寧に電話番号までくれたのです。親切なお巡りさん、本当にありがとう。

で、そのすぐあと、さっきからじつと見ていた少々太った男の子がカタコトの英語で話しかけてきて、私がたぶんプラグをやられたらしいことを説明して、スペアのプラグを取りだすと、ものの二十〜三十秒ほどで手際よく交換してくれました。

まったく心細い時の人の親切って身にしみますね。ついでに、時間もかなりたつてしまったことだし、彼氏の親切にあまえて、ホテルを紹介してもらい、このヘンゲロに泊ることにしました。

快調 RD 350 アウトバーンを130 km/h

さて明日の予定はドイツに入り、さらに北欧に向けて走りつづけることにしましょう。

翌朝、雨の音で目を覚まし、時計をみると七時過ぎ。十分間で身仕度を整え、階下の食堂におりたところで、昨日の彼氏の出迎えをうけました。というのは、愛車 RD 350 を彼氏のカレージに預けてもらっていたのです。昨夜の雨のひどさと思うと、もし、マシンを外に放りだしておいたらどんなことになっ

たものか。本当にありがとう。

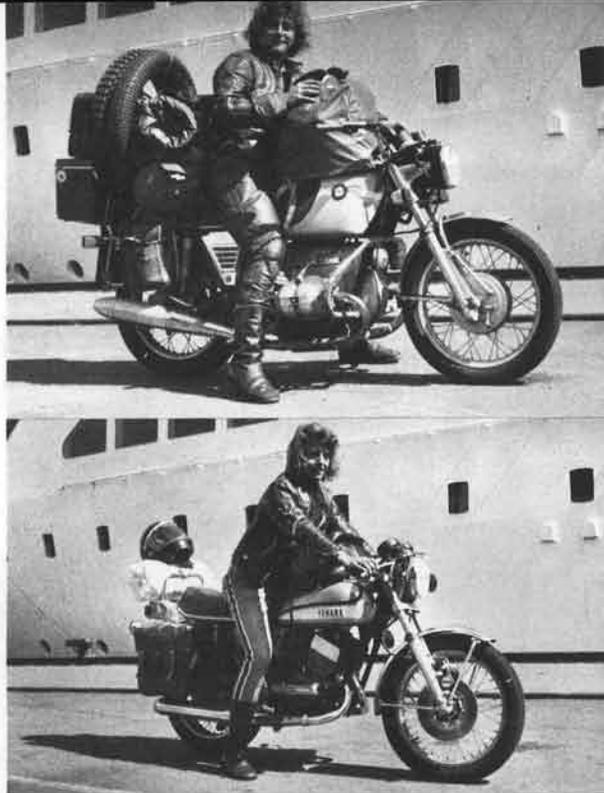
バックミラーに、いつまでも手をふっている彼の姿を写しながら、いざいざドイツへ。雨はあがり、青空も見えて、ひと安心。一〇〇キロ/時でぶっ飛ばし、あつという間にドイツへ入国。国境通過といつても、車輛持返りを示すグリーンカードをみせただけ。

つい調子にのりすぎて、一二〇キロ/時、一三〇キロ/時なんてことも起りがち。気をつけなくっちゃ。最初の目的地はブレーメンというところだけど、アウトバーンの出口は沢山あって、「ブレーメン〇〇」と、ブレーメンにつづく行き先によってブレーメンの出口が六つもあるのだから困っちゃう。

でもまあ、いずれにしても北東部へ抜けるんだからいちばん最後の出口にしましょう。ところが、どうやらこれが見当違い。静かな静かな郊外の町で、オートバイの音に驚いて、店の人が表にとびだしてくるくらいのところ。やつとので銀行を見つけ、ドルをマルクに変えたのはよいけれど、泊るホテルが見つからない。今さら街の中心に出るのはもったいないし、えいままよ、ハンブルクに向けて出発しましょう。

でも、このアウトバーンなる高速道路、本当に「止まらない」って感じで、降りるのが面倒。それに、この日は調子がすごくよくて……。これまた五つ六つある出口を横目にとつとやってきましたましたルーベック。ヘルシンキ行きフェリーの発着港、トラベミューンまではあとわずか十数キロです。行っちゃいましょう、ヘルシンキへ！

SL仲間にはみんないい人
フィンランドへ上陸



同じヤマハに乗っていた彼はグループとは別でひとり旅とか



大失敗をやらかしたあと、フェリーの船内で

ブレイメンをミスし、ハンブルグをパスして、トラベミューンまで来てしまったけれど、やっぱり来てよかった。というのは、ちょうど金曜日の夕刻とあってワンサカ押しかけてきた旅行者。中でも私を喜ばせてくれたのは、ウロチョロしている私を目ざとく見つけて声をかけてくれた六人グループのライダーたちでした。

日本ではとつても考えられないほど大きな荷物をのせた彼等のマシンはBMW750、モトグッチ750などのビッグマシン。その中にありましたわが愛車の弟RD250が！

さっそく彼等の仲間入りした私は、彼等がガストハウス（ドイツ）のオートバイ仲間です。夏期休暇を利用してのツーリングということを知りました。日本のライダー、しかも女ということで、彼等の親切ぶりはまた格別。新車なのに七〇キロ余りも走って、チェーンがダブついているのを見るや、即座に直してくれる彼、重い雨具を脱ぐのを手伝ってくれる彼、至れりつくせりです。

私も嬉しくなって、カメラ片手に大張りきり。だけど、一人前の顔をして仲間入りしていた私が、ここ！って大事なときに大失敗をやらかしたのです。車の乗船客が乗り終つていよいよ私たちオートバイが乗船するとき、親切な彼等に前後を護衛されて少々興奮気味だった私は、ウーン！とうなりをあげて船へ通じるブリッジの頂上へ上ったまではよかったのだけど、急な下り坂と、その先につづく船底への通路の急カーブときたら、「アレ！ッ」と思ったとたん「ガシャーンッ！」マシンの前輪をブリッジから完全に落とし、私は海中へ投げこまれるところを危うくセーフとなったのです。

甲板から遙かに見おろす人々や、棧橋で立ち働く人々や、みんなの注目をあつめていた「紅一点」がとんでもない失敗をやらかしたので、みんなの驚きようといったら！

この失敗のおかげで、いっそう周囲の人々の注目のマトとなるし、ライダー仲間はずます親切になるし……。やっぱり女は甘やかされてますって証拠。

私は皮手袋を通して手の甲にかすり傷をただけで、マシンも左のバックミラーが少々ゆがんだ程度ですんだのは幸いでした。とんだところで、ヤマハの強靱さと、日本女性のたくましさ？を示したというわけです。

ともあれ、船中40時間、彼等と大いにしゃべり、大いに楽しんで、いよいよヘルシンキ上陸です。

私を真中に、前後を護衛する格好で、フィンランドに入国したのです。もともと彼らにしてみれば「危うかつくて、とても一人では放っておけない」という気持ちでしょう。ヘルシンキのヤマハ・インポーター、アーウイドソン会社の場所を確かめ、私のためにホテルを見つけてくれ、チェックインまでさせて、グループは彼等の目的地へと向って旅立っていったのです。さようなら、ありがとうライダー仲間たち。

さて、これからが私の本番。なんでもみてもやろうです。「ヤマハニュース」のみならず、まには、やはりご商売がらオートバイ関係のニュースに関心があることと思います。

ヤマハのインポーターやディーラーさんをお尋ねして、いろいろ聞いたこと、見たことをご報告したいと考えています。女の私の目からみたことが少しでもお役に立てば、それで私は満足です。ご期待ください。

もりあがるカート熱!!

テクニカルセンター磐田でライセンス講習会をひらく



▼小さなカートが、本当に小さく、また逆に大きく見えたりして……



▼「カートはこれからの新しいスポーツ。みなさんと共に健全な育成につとめましょう」

▶この際、カートの構造もバッチリ頭に入れてやがて自分のマシンを！



遠々長蛇の列を組んで、フジスピードウェイのコースにローリングスタートした「YG SF杯争奪カートレース選手権大会」の興奮もまださめやらぬ八月十二日、ヤマハ本社前の「テクニカルセンター警田」を会場に、JAF（日本自動車連盟）静岡支部主催のカートライセンス講習会がひらかれました。

☆☆☆☆

この日あつまった受講生は、地元・浜松市をはじめ愛知県、東京など二十八名。なかにはカートに乗るのは今回が初めてというまったくの初心者もあつたが、いずれもカートにかける意気込みはそうとうなもの。地を這うように走るスピード、パワースライドさせてコーナーを切るダイナミックなカーテイングに魅せられた人ばかりだ。

講習会はまず座学から始まり、「カート競技の概要と事故防止」を学び、次いで「カートライセンスの申請手続き」と「競技車輛規則についての解説」とつづく。そして待望の実技講習となる。

さすががカーターをめざすだけあって、実技講習はもつとも意気がのり、まったくの初心者を含めて、この講習会での最大のハイライト場面。新発売の「ヤマハカートRC100」を駆って右に左にコーナーをやり過し、ブレーキに加速に、さまざまなテクニックを身につけたものであった。

☆☆☆☆

この受講によって、十二歳以上十六未満の人はジュニアBライセンス、十六歳以上十八歳未満の人はジュニアAライセンス、十八歳

▼講習が終るころには、さすが巧みなドライビングぶりをみせたものだ



▼ライバルはどうだ！ ちょっと気がかり



▼インストラクターについて、きめられたサインの練習



以上の人はセニアBライセンスの発給をJAFに申請できることになり、さっそく申請書にペンを走らせている姿が印象的であった。

☆☆☆☆☆

なお、JAFではカートレース普及のため全日本選手権レースを組んでおり、今年度は八戦にわたってのシリーズでタイトルが競われている。レース区分けは搭載エンジン別にS、A、B、C、D、Eの六クラスがあり、すべて2サイクル・エンジン、それも四輪用は除かれるという規則となっている。

このうち主流のレースがSおよびAクラスで、いずれも排気量一〇〇cc以下、単気筒ピストンバルブ式という条件つきである。

これはカート本来の姿ともいふべき、単純で明快なマシンによるスピード競技という形にもっともそっくりなものだからでもある。

とにかく、カートレースはモータースポーツの中でもっとも若いドライバーの参加を許しているもので、満十二才、中学一年生からライセンスの取得資格が与えられている。

こうしたことから、カートレースに対するファンも年を追って増えてきており、サーキットも各地でつくられるようになった。

またカートそのものも、レーシングマシンとして手軽に求められる価格にあり、「ヤマハカートRC100」の発売もあって、その人気は急速に伸びてきている。

もちろん「ヤマハカートRC100」は、SクラスおよびAクラスのカテゴリーに入るもので、こんごの活躍がカートラーの間で注目されているものである。

●ヤマハ原付免許教室→本試験合格→チャッピー購入
働き
学ぶ
仲良し4人チャッピー娘



昼は病院、准看護学校に通い、夜は定時制高校に学ぶ17才の仲良しグループ。左から大塚和美さん、白坂まゆみさん、工藤郷子さん、鎌田洋子さん

愛知県西尾市。東名高速・岡崎インターチェンジから南に二十キロほどくだったこの町で、赤、緑四台のチャッピーに乗る娘さんグループが話題をあつめています。

そろって免許教室へ

四人の娘さんは、鎌田洋子さん、白坂まゆみさん、工藤郷子さん、大塚和美さん。そろって十七才の若さあふれるこの娘さんたちは午前中は市内の大病院に勤め、午後からは西尾看護学校、そして夜は一色高校に通う社会人でもあります。

この娘さんたちが、免許をとろうと思った動機は、テレビCMでチャッピーに魅せられたことによりますが、その主な理由は、一時間余もかかる夜間高校への通学時間を短縮することにあります。

しかし、一日をフルに働いている四人にとって、果してどうすれば免許をとれるかが大きな問題です。この解決策も見当たらないまま市内のヤマハフレンド店・高須サイクルさんにチャッピーの実物を見に出かけました。そこで『ヤマハ原付免許教室』の開催を知ったのです。すでに七月もなかばのことでした。

もちろん、さっそく免許教室に受講申込みの手続きをとったことはいうまでもありません。それからは、夏休みを待って免許合格を目標に、テキストの熟読、模擬テストのくり返しに、新しい勉強がはじまりました。

四人の熱意と真しめさに、高須サイクルの経営者、高須正さんも大いにハッスル、岡崎営業所から山木久則講師の派遣を要請して完



きょうは待望の日曜日。制服から私服に着がえてちよつとこまで。チャビイをもってから時間のゆとりが増えました。



きょうはどこへ行こう。気軽に乗りだしていただける手軽さがチャビイの大きな魅力なんです。



免許試験特訓中にいち早くチャビイを購入。寮の中庭で運転技術のほうも学んでいました。

ベキな体制をひきました。

合格前にチャビイ購入

この特訓に、法令解釈の理解度は日を追って高まり、模擬テストの成績も一〇〇点満点と成果を高めました。これなら合格間違いなし、という太鼓判もあって、いよいよチャビイの購入に踏みきました。

「免許が受かってからにしては……」の高須さんの言葉も柳に風、赤にするか、緑にするかでケンケンガクガクの四人です。結局、仲良く二台ずつ、ということと結論がついて本試験を申請。ちよつとカタクなつたとはいふものの、四人ともそろって合格。晴れてチャビイのオーナーになったというわけです。

病院の同じ寮で起居を共にする四人は大の仲良し。寮母さんの許しを得て構内を運転の練習場とし、あるときはヘッドライトを頼りにスタート、停止、右に左に、コーナーワークのテクニクをマスターしたものです。

チャビイ独自の手軽な運転操作と、静かな排気音は、こうした練習に、余分な神経を使わずにすませられ、上達を早目しました。

八月二十四日、待望の運転免許証を取得。赤と緑の二台ずつ四台のチャビイはさっそく公道走行へのデモンストレーション。あざやかなグループ走行をみせたのです。

時間もお小遣いも経済的

夏休みも終わって、いまのチャビイはもっぱら通学の足。電車通学のときは、授業が終

仲良し4人チャビイ娘



こんにちは高須サイクルさん。そろって500キロの定期点検をうけにきました



チャビイは軽く、取回しがラク。センタースタンドも軽く起せます。通学のスタイルで。



歩道橋を渡りましょう——。免許をとってから歩いているときも道交法を守る4人です

わるとよく寄り道などしてお小遣いを使っていたのですが、いまでは真すぐ寮へ。

週に一度、彼女たちにとって待望の日曜日が訪れるとチャビイも元気づきます。一色海岸や旧所、名跡を訪ねて、遠乗りへ出かけることになるからです。

彼女たちのこうした生活に、心のこもった注意やアドバイスをあれ、反対する人は誰れもいません。家族のみなさんは、彼女たちの免許合格への努力をほめ、病院の先生方や寮母さんも「楽しく、安全に……」と暖かい言葉をあてています。

学校のクラスメイトや、寮友たちは、免許の取り方やチャビイの乗心地、遠乗りの楽しい話を求めてあつまってきますし、ちよつとした人気者の昨今です。おそらく、この娘さんグループについて、新しいオーナーも増えることでしょう。

△チャビイ娘と一問一答

—— チャビイは何で知ったの

工藤 私がテレビで見て。どうしても乗りたいくなったの。

鎌田 来るまで興奮しちゃた。

犬塚 グリーンが落ちついた感じだから鎌田さんと二人でグリーンにした。

白坂 工藤さんと二人で赤。赤の方がいいヨ。チャビイのどがいいですか。

白坂 スタイルが最高!

犬塚 スカートで乗れるでしょう。乗りやすい。

白坂 ブレーキがハンドルでしょう。だから自転車と同じ感じで乗れる。

鎌田 車輪が太いから安定もいい。

仲良し4人チャピイ娘



チャピイをもって、生活のサイクルにますますハリが出てきました。郊外で新しい発見をるのもめずらしくないきょうこのごろです

工藤 学校の帰りなど、電車の待ち合わせに食事をしていたのがなくなったでしょ、お金を使わなくなりました。

—— 免許教室はどうでした。

鎌田 問題がいっぱいあって、むずかしかった。だって初めてだもん。道交法なんて……

白坂 だから一回で合格したんじゃない。

工藤 頭が良かったからヨ!

犬塚 でもあの問題集と同じような問題が出たわよね。

鎌田 ほんとに、よかったワ!

—— 毎日乗ってるの?

全員 はい。

白坂 今まで学校まで一時間ぐらいだったのにチャピイなら二ー三十分で行けるから、すごく楽になった。

工藤 電車より楽しいネ。景色だっていままで見えていたのとぜんぜん違う。

犬塚 信号待ちかなんかで乗用車の男の人が「これがチャピイか、カッコイイ」っていうヨ!

工藤 海に行ったときに、みんな集まって来てチャピイを見てるの。

鎌田 チャピイに乗ってからは、普段歩いているときも、周囲の交通に注意してマナーを守るようになりました。

犬塚 事故を起こすと、学校で反省文を書かされるから、いつも注意して乗ってます。

白坂 婦長さんや、まわりの人が「注意しなさんヨ」と言ってくれます。

「楽しさと安全」を合言葉に、きょうも四台のチャピイは明るい元氣な娘さんをのせて西尾の町を走っています。

'74ヤマハスノーモビル

*****新発売*****

業務用、レジャー用、レンタル用の
ヤマハスノーモビルのポスター。

ヤマハスノーモビルのPRは積極的に
すすめられています。

雪のシーズンに先がけて、'74ヤマハスノーモビル群をご案内いた
します。

6シーズン目を迎えて、また一段と内容を高めたニューモデルを
中心に、業務に、レジャーに、そしてレンタル場に、ヤマハスノー
モビルの活躍は今シーズンもひとときわ高い人気を呼ぶことでしょ
う。冬を行動的なものへと変えるヤマハスノーモビルは、雪国の生活に
欠かせぬ商品となっています。

どうぞ、よろしくおひきたてください。

レジャー用(A全ポスター)



スノーモビリング 新しい冬の発見

業務用(A全ポスター)



●氷下魚漁 ●若鷺漁 ●帆立貝漁 ●牡蠣漁 ●融雪剤散布
●酪農業 ●郵便配達 ●商店 ●医院 ●ノボロール

レンタル用(B全ポスター)



雪国の交通の足として定評あるS-300DX、つよいけん引力をもつS-350DX、S-440、そして冬のご商売を広げるレンタル車S-300Rなど、すでにおなじみのモデルに加わって、ライトバンにも積込めるS-300Mや性能を楽しむGPシリーズなど、ヤマハならではの豊富なバリエーションで'74「ヤマハスノーモビル」が勢ぞろいしました。

ハンドリング特性を高め、走行安定性の向上を果すセンタータン

ク方式の採用(S-300M、GPシリーズ)や、23mm増し巾広スキーの装着(S-300M、GPシリーズ)、トラックサスペンションの改良(S-350DX、S-440セル付)、新機構スライドレール式サスペンション(GP-338F、GP-433F)など各用途に合わせた新技術をはじめ、新発売モデル全機種に非対称山高トラックの採用やメーター類の大型化など、いっそう充実した内容をもたせての登場です。スノーモビルはヤマハ! もう間もなく活躍がはじまります。



'74新発売

GP-292F

ショートフレームに5ポート+リードバルブの新設計エンジンをのせた準レース仕様モデルです。出力はピーク時で1馬力アップしているほか、中低速回転域でのトルクが大巾に向上し、きわめてピックアップの高いパフォーマンスを発揮します。巾を23mm広げたスキーには油圧ダンパーが装着され、燃料タンクをセンター配置として走行安定性の向上を図り、ハンドルバットやメーターパネルをデラックス化、波型デザインのシート、エンジン防音対策など、商品魅力を高めました。

全長2,440mm 全巾845mm 全高920mm エンジン強制空冷2st.単気筒292cc 最高出力28PS/6,000rpm 始動方式手動リコイル式 燃料タンク15ℓ トラック巾380mm(シングル) 前照灯、尾灯、制動灯つき



'74新発売

GP-338F

スノーモビルレースの340ccクラスにフルサイズで挑戦できる資格をもった準レース用モデル。高性能5ポート式2サイクル2気筒エンジンに加え、トラックサスペンションに新機構のスライドレール式を採用、ギャップの激しいコースをグリップよく高速で通過するすぐれた走行性能をもたせています。またエンジンシュラウドにはゴムの特殊スポンジを内張りし、エンジン騒音の減少を図っています。スキープロテクター、ハンドルバットつき。キャブレターはアイシング防止式。

全長2,580mm 全巾880mm 全高995mm エンジン強制空冷2st.2気筒338cc 最高出力32PS/6,000rpm 始動方式手動リコイル式 燃料タンク容量18ℓ トラック巾380mm(シングル) 前照灯、尾灯、制動灯つき



'74新発売

GP-433F

接雪圧を高める新機構のスライドサスペンションと、5ポート+リードバルブ方式の強力エンジンを組合わせたもっともホットな準レーシング仕様型。新開発のアイシング防止式キャブレターは加速ポンプ付で、低速から高速に至る全回転域で、強力なパワーをひきだします。スキー先端にはかせたプロテクター、ハンドルバーをおおうバット、人間工学にもとづいたR曲線波型デザインのシートなど、いずれも安全面を考慮した設計で、エンジンシュラウドは防音加工処理つきです。

全長2,580mm 全巾880mm 全高995mm エンジン強制空冷2st.2気筒433cc 最高出力39PS/6,000rpm 始動方式手動リコイル式 燃料タンク容量18ℓ トラック巾380mm(シングル) 前照灯、尾灯、制動灯つき

ラインアップ

'74ヤマハスノーモビル

'74新発売

S-300M (認定車)



ヤマハスノーモビル発売以来5シーズンの実績をもとに開発した小型軽量の汎用型。全長は2,430mm、重量わずか150kg。1,500cc級のライトバンにかかる積みこめます。巾23mm増しのスキーはすぐれた直進性を保ち、15ℓセンター方式の燃料タンク配置とあいまって抜群の走行安定性を発揮します。一段と豪華になったメーターパネルまわりをはじめ、より静かな排気消音対策など、充実した装備も大きなセールスポイントとなるものです。

全長2,430mm 全巾790mm 全高930mm 重量150kg 燃料消費率7km/ℓ 最小回転半径4,100mm 登坂能力20° エンジン強制空冷2st.単気筒292cc 最高出力18PS/5,500rpm 始動方式手動リコイル式(セルフスターター取付可能) 燃料タンク容量15ℓ トラック巾380mm(シングル) 保守灯火類完備

'74新発売

S-350DX (認定車) S-440 セル付 (認定車)



両者の共通した特長は、高馬力、巾広トラックで安定性にすぐれ、とくに業務用として定評を得ていることです。'74モデルとしては外観的な変化はありませんが、スキーおよびトラックサスペンションの配置を改良、ハンドル操舵力の軽減を図るなど、さらにすぐれた走行安定性を発揮できるものとしてあります。また前面エヤインテーク式のS-440では、手動リコイル式始動に加え、セルフスターターを標準装備としました。〈〉内はS-440。

全長2,680mm 全巾950mm 全高1,165mm 重量197<202>kg 燃料消費率5<4.5>km/ℓ 登坂能力20° エンジン強制空冷2st.2気筒338<433>cc 最高出力25<28>PS/5,500rpm 燃料タンク容量21ℓ トラック巾460mm(シングル) ツインヘッドランプほか保安灯火類完備

S-300DX (認定車)



安全性、取扱いやすさ、乗り心地の向上を図った普及型。業務、レジャー用に大活躍。

全長2,665mm 全巾790mm 全高1,030mm 重量160kg 燃料消費率6.5km/ℓ 最小回転半径4,500mm 登坂能力20° エンジン強制空冷2st.単気筒292cc 最高出力20PS/5,500rpm セル始動取付可能 燃料タンク容量18ℓ トラック巾380mm(シングル) 保安灯火類完備。

S-300R



とくにフレームの強度アップを図ったレンタル専用車。手軽な乗りやすさでうけている。

全長2,680mm 全巾880mm 全高1,030mm 重量170kg 燃料消費率6.5km/ℓ エンジン強制空冷2st.単気筒292cc 最高出力20PS/5,500rpm 始動方式手動リコイル式 燃料タンク容量19ℓ トラック巾380mm(シングル) 前照灯、尾灯、制動灯つき。

ヤマハスノーモビル用品

スノーモビルのある生活、レジャーを高めるため、ヤマハでは次のようなヤマハスノーモビル用品を用意しております。

- ヘルメット (JIS 2種、MFJ認定)
- ゴーグル (ポラロイド製 偏光レンズ)
- スノーモビルルック (防水加工、尻部二重内面キルティング仕上げの、ツナギ防寒衣)
- スノーモビル手袋 (高級皮製3本指)
- スノーブーツ (内面二重保温、防水加工の防寒靴。半長靴式)
- スノーモビルカバー (赤黒2トーン布製)

RESTMOR MARMET ROYALE



SUPER IMPERIAL

スーパーインペリアル

格調の高さを誇るベビーカーの逸品。

- 特製フード、エプロン付●安全なハンドブレーキ付
- クッションのよいリーフスプリングシャーシー●車輪：(前)18インチ、(後)22インチ
- 色=(内)白・(外)紺
- 標準現金価格 ¥65,000



LORETTE

ロレット

新しい感覚で若いおかあさまに好評。

- 取りはずし可能なボディ●場所をとらない折りたたみ式●安全なハンドブレーキ付●クロームメッキ仕上げ
- 車輪：(前)16インチ、(後)18インチ
- 色=(内)紺・(外)紺/(内)こはく色・(外)濃茶
- 標準現金価格 ¥55,000



SATURN

サターン

初めての赤ちゃんに最適な機能的デザイン。

- 取りはずし可能なボディ(ナイロン製)●場所を取らない折りたたみ式●2段に調節できるバックレスト●安全装置付●調節可能なスライド式フットレスト●フード、エプロン付●クロームメッキ仕上げ●分離可能な車輪：前後とも10インチ
- 色=(内)紺・(外)紺/(内)ベージュ・(外)濃茶
- 標準現金価格 ¥43,000



COMO

コモ

気軽なお出かけにぴったりのベビーカー。

- 場所をとらない折りたたみ式●調節できるバックレストとフットレスト●安全なハンドブレーキ付●エナメル加工仕上げ●車輪：前後とも7インチ
- 色=(内)紺・(外)紺
- 標準現金価格 ¥18,000
(コモフード) ¥25,000



イギリスの香りをものせて ベビーカーがやってきた

プジョーサイクルにつづくヤマハ輸入商品の第二弾、イギリス製のベビーカーをご紹介します。

このベビーカーは、イギリスのトップブランドとして名高い「レストモア」グループの製品で、イギリス国内はもとより、世界のお母さま方から厚い信頼が寄せられている国際的な商品です。

「レストモア・グループ」とは、レストモア社、マーメット社、ロイヤル社の組織体で、いずれもベビーカーの製作にかけては半世紀以上にわたる技術と経験をもった老舗です。

ヤマハ発動機株式会社はこのほどこの「レストモア・グループ」との間に販売契約をむすび、同社製品の国内総代理店として販売活動をはじめました。

ここに紹介するベビーカーは、最高級品のスーパーインペリアルをはじめロレット、サターン、コモなど、いずれも人気の高い代表的な商品ですが、このほかにシャーロット、アニータなど10タイプ11種類が用意されています。

レストモア・グループ社ベビーカーの特徴

■ 格調高く優雅なデザインと落ちついた色調、行き届いた仕上げの高級品。 ■ 取りはずし可能なボディ、場所をとらない折りたたみ式、2段に調節できるバックレスト、調節可能なスライド式フロントレスト、分離可能な車輪など数々のアイデアがもりこまれている機能性。 ■ すべての車種にハンドブレーキ、安全装置つきのため安心して使用できる。 ■ 赤ちゃんとコミュニケーションがはかれる対面式ベビーカー(コモを除く)。 ■ 赤ちゃんの乗りやすさを追求したC字型スプリングシャーシーの採用で、やわらかでクッションのよい乗りごこち——など。



こんにちは

ヤマハ

です

草の根運動の精神で

スポーツレジャーの根っこを育てる

茨城県那珂湊市辰ノ口六〇五〇●金沢輪業さん



スポーツレジャーの育成に力を入れる金沢輪業さん

ジッピーのお嬢さん

那珂湊市・木村信子さん

町の小学校に勤める事務員さんです。「クルマのことは、まだよくわからないけど、クッションがいいですね、乗り心地が素敵です」と満足そう。横あいからお父さんの美作さんが「オレは若い頃には走りまわったゾ。ジッピーを持って来たので、ウン、娘ふたりが乗るのには丁度いいだろうと言ってやった」金沢輪業さんでは、「やっぱリダイナミックなクラッチ付きが欲しい、という弟さんの意見を尊重したんですが、ジッピーならおしやれな女性にもピッタリでしょう」

「こんにちは、ヤマハです」
 「はい、こんにちは、いらっしやい」
 信子さんの愛車は、五月にデビューしたヤマハジッピーLB50—I・Hです。
 「もう七百キロも走ったのですよ」
 「おや、ホントだ、ずいぶん走りましたネ。でも、車を買ったのはふた月まえでしょう」
 「この夏、"ミニクラブ"の人たちに連れられて、常磐ハワイアンセンターへ行ったの。その日だけで三百キロも走ったワ。ツーリングは、生れて初めて！ たのしかった」
 春四月に原付免許を取った信子さんは、妹の幸子さんと共同使用を約束して、発売もないヤマハジッピーを購入。勤務先の那珂湊第三小学校への行き帰りに、「ミニクラブ」のツーリングにと、ジッピー・ライフをぞんぶんに楽しんでいきます。

「完全装備」がみんなのルール

真紅のジャンパーの背に大きな金文字で、「MIC」——ミニバイクでツーリングを楽しむ「ミニクラブ」を主宰するのは、へ水戸を離れて東へ三里、波の花散る漁港町、那珂湊市にヤマハフレンド店をひらく金沢輪業さん。「竹の湯」の箱入娘、木村信子さん、幸子さん姉妹がジッピーを買ったのも、このお店から。夏休みで、ちょうど在宅していた姉の信子さんが案内してくれました。

「弟がオートバイ好きなので、金沢さんの店へ毎日のように遊びに行っていたのです。水産高校を出て、いま、実習船で遠洋航海中。機械にウルサクって、金沢さんと相談して私たちのジッピーを選んでから、海へ出かけたのですヨ」

あいにく台風模様の雨降り。訪ねる方には都合が良くて、金沢利雄さん(70)、忠利さん(30)父子が顔をそろえて店にいて、先客とダ



3月▶筑波山ツーリング



これがMICのユニフォームです。左から金沢忠利さん、お父さんの利雄さん、そしてお客さまの木村信子さん

べっていました。
まず聞かせてほしいのは、ツーリングクラブの活動現況から――。

「若旦那」の忠利さんは、もう一年ほどまえから、これからのSL活動のやり方を思案していました。MICを発足させたのは、今年の三月です。

「miniからMIを取り、clubのCをくっつけてMIC(ミニクラブ)としたんだけど、モーター(M)愛好者(I)クラブ(C)と呼んでも構わない。心は一つなのですから……。思い切って、発会のと時からユニホームを揃えました。わたしが、いい既製品をさがして来て、金糸の縫取りだけを逃えたのです。背中にMIC、左袖にフルネームを入れる。これなら、みんな自分のを大切にします。

ユニフォームはもちろん、ヘルメット、手袋、ブーツ着用――完全装備で参加するのが、MICのルールです。

「結果的には、無理して張りこんだのがよかったですよね。カッコよさ」の点も、みんな満足しているようだし、「仲間といっしょに走る」というマス・ツーリング意識が、たがいに通い合うのです」

安全運転、燃費も「らくらく」

いま、レギュラーメンバーは十人。みんなの車種がウレシイじゃないか、ヤマハミニトリールFT50、JT50、ヤマハトリールMR50。金沢さんも、この日だけはGT80にまたがります。ジッピー娘について行く気を起させたのも無理はありません。

「原付を取ってから、まだ三カ月目だ

しよう、はじめは心配だったけれど、中ほどに挟まれて一生けんめい走りました。帰り道は、もう、すっかり自信をつけたのですよ。

いや、目立ちますね。赤いユニフォームにカラフルなミニバイクの行列縦隊、途中で出くわしたツーリング仲間が、とおくから手を上げて挨拶してくれます。畑仕事のお百姓さんたちが「いい天気でよかったね、どこへ行くにやあ」と声を掛けてくれます。

このあいだ、ついノリすぎて飛ばしていたら、いつのまにか白バイが並んでいて、「ちょっと出すぎているよ」と笑っていました。四十キロでした。

まあ、安全運転で愉快にやるテを見つけたわけです、と忠利さんは語りますが、ガソリンを喰わないことには、あらためて驚いたそうです。リッター当り五〇〜六〇キロを走行しています。

「いままでは、大型車のツーリングと言えば、一リットルでせいぜい三〇キロでしたから、速力を出さなければ燃費が節約できるということとは、やって見えてはじめて実感を得たのです」

三月▼筑波山(日帰り)

四月▼袋田温泉(日帰り)

五月▼日光(日帰り)

六月▼成田山〜潮来水郷(日帰り)

七月▼常磐ハワイアンセンター(日帰り)

八月▼猪苗代湖(一泊二日)

いずれも、那珂湊から片道百五十〜二百キロの圏内です。平均すると一台のガソリン消費量は、一回のツーリングで六リッター程度。ガソリンスタンドの人が、たいてい笑っています。

メンバーの平均年齢は、たしか十九歳か二十歳になる。学生が二人、あとは大王さん、配管



5月▶日光ツーリング

7月▶常磐ハイアンセンター
ツーリング



8月▶猪苗代湖ツーリング



4月▶袋田温泉ツーリング



工さんなど若い職人さんが多いので、
の定休日の「最大公約数」第三日曜日を「M
ICツーリング」の例会日としています。

月に一回、若い仲間が存分に青空の下で英
気をやしなうレクリエーションサークルです。
発会後半年、いよいよみんなの意気も盛り上
って来ました。赤いユニフォームの「MIC
仲間」をわが町のマスコットに育てたいと、
若いヤマハフレンド店主二代目は張り切っ
ています。

参考までに、「MIC」のお台所を紹介して
おきます。入会金▼五千元(ジャンパー代金
半額負担を含む)、会費▼毎月二百円。ツ
ーリング参加費▼千円(一回分予算)。

第二、第三の「MIC」も計画中

じつは、もう一つの「MIC」があります。
こちらは「重量車組」とも呼びます。車
種がTX750、TX500、金沢さんはRX350で参
加します。ことし八月に結成したばかり、メ
ンバーは三人だけです。発会式をかねて、八
月四、六日に佐渡が島一周ツーリング。メン
バーの都合で日程をやりくりしたら、おりか
らのYGSFとぶつかり、金沢さんは迷った
が、第二の「MIC」誕生を強行させた。

「メンバーがわずかだし、これからどうい
う方向へ育てていくか、じつは私自身まだ模索
中なのです」そして、なるべく早く、できれ
ば年内にもトライアルを始めたい、と金沢さ
んの意欲は尽きません。

「それも「MIC」と名付けるのですか」

「え、まあ、一応そのように……」

かまわない、「SL」ころは一つです。そ
ういえば、YGSFをはじめ各地のトライア
ル教室で「ヤマハトライアル」の花を咲かせ
てくれたのがミックさんでした。金沢さん、
トライアルクラブも第三の「MIC」でやり
ましょう。

去年、水戸、大洗、那珂湊などヤマハ店二
十店が協同し、那珂湊スポーツセンターでモ
トクロスをはじめたが、二年目はちよっと足
踏み状態、選手層の育成がなかなかむずかし
い。このあたりで、もう一度「草の根運動」
の精神にかえり、小さくてもモータースポー
ツの、しっかりした根つきを一つずつ育てて
いこうじゃないかというところに、金沢輪業
さんの「MIC」計画の切実な願いがこめら
れています。

こんにちは

ヤマハ

です

創業・明治30年の 実績が選んだプジョーサイクル

浜松市鍛冶町有楽街 ● サイクルショップ 御園井商会さん



いつも活気あふれる御園井商会さん。
右入口の頭上にプジョーの看板がある

「ものを売るだけなら、誰にでも出来ると思います。私どもは「ミソノイ商会」でなくては……とお客さまに言われるように心がけています。」

正しい乗り方や交通標識の勉強などの安全指導を始め、サイクリングの計画に対するアドバイス、そして迅速な出張修理と、お客さまの信頼を裏切らないように常に奉仕の気持ちを忘れないようにしています。

御園井商会——明治三十年創業。自転車一筋で発展してきた老舗である。

開口いちばん、お店のモットーを力強く話してくださいました御園井宏昌氏(44)は、昭和二十七年から陣頭に立っている専務取締役だ。

近代的な経営感覚と、お客さまを大切にする昔ながらの商人の心を持ったお人柄で、店のすみずみまで活気があふれている。

御園井専務は言葉をついで、さらに次のように語ってくれた。

大切なアクセサリ用品

「パーツはもとより、いろいろなアクセサリも、製品同様に大切な商品として考えています。というのも、最近の若いお客さまは移り気の人が多く、すぐに飽きてしまったりするんです。そんなときに、変わったスタイルのミラーや、キャリヤーなどをおすすめするのは、これが意外と喜ばれるのです。」

ですから、ショーウィンドウには常にいろいろなアクセサリ、ツール類をならべるように心がけ、好きなものを自由に選んでつけてもらうようにしています。



お客様の嗜好を先取りし、安全けいもう面でもリードしていく立場に立たなくては……と語る御園井宏昌専務

「いま、うちの店では月に二回、全社員が出席して市場研究を行なっています。商品知識の徹底をはじめ、商品に対するお客様の好み、そして販売促進企画などが主なテーマですが、これと別に、一週間ごとに、毎週の販売方針を確認するミーティングも開いています。というのも、これからの店は率先してお客さまをリードしていくようであればお客さま方に飽きられてしまうからです。またこういうようなミーティングで、なんの気はなく話していたことに、非常に重要なテーマがかくされていたりするのですね。だから、お客さまと自転車を結びつけられることなら、どんな小さなことでも話し合うよう

「プロジョーサイクルの販売はその結果のことなのです。この商品ならお客さまの要望にお応えすることができる、お店のプライドもある、という判断があったんです。デザインやカラーリングは、さすがファッションの国、フランスという感じ。手作りの部品もみな世界の一流品です。とにかく、最近のお客さまはいろいろと深い知識をもっていますし、よく研究しています。プロジョーサイクルはそういうお客さまを満足させるにはぴったりの商品ですね」御園井専務は、ご自身の深い経験にもとづき、力強い自信でこう断言した。良いものは認められる——、というものである。



プロジョーサイクルの展示台において、ひときわ目につくディスプレイ

毎週ひらく販促会議

東に天竜川、西に浜名湖と、自然の美しさに囲まれた浜松市は、かつて織機の町として栄え、また楽器に、オートバイに、産業経済の発達いちじるしいところ。御園井商会さんはこの浜松市の中心地、銀座通りともいえるべき有楽街通りにお店を構えている。それだけにお店に訪れるお客さまもさすがに多い。

そんなとき、『ミラーをそんなに出たら危ないよ』なんて、安全面に注意してアドバイスしてあげるんです。なかには不服そうな顔をする人もいますが、いつか解ってもらえるものです。こうしたちよつとしたことが、お客さまと私たちのつながりを密にするんですね。これは商売する人にとって非常に大切なことだと思っています」

プロジョーはやはり最高級品

「プロジョーサイクルは昔から知っていました。こんどヤマハが取扱うということも、地元だけに、すぐにニュースが入りました。当然、ミーティングに図り、プロジョーを扱うことについてのメリット、デメリットを研究し、あらゆる角度からプロジョーサイクルの商品的魅力を検討しました。」

「プロジョーサイクルは昔から知っていました。こんどヤマハが取扱うということも、地元だけに、すぐにニュースが入りました。当然、ミーティングに図り、プロジョーを扱うことについてのメリット、デメリットを研究し、あらゆる角度からプロジョーサイクルの商品的魅力を検討しました。」

「子供のおかげから自転車一家に育った御園井専務。自転車にかける熱意は相当なものである。お店には現在六十名を越えるサイクリングクラブをもち、月に一回は必ずサイクリングに同行するという。」

北海道各地で 行事を開催

北海道ヤマハ株式会社では、札幌市・加藤商会、浅沼商会、岩見沢市・砂原商会、釧路市・斉藤商会、帯広市・尾藤商会、奈井江町・矢野商会、岩内町・乳井商会さんなど、フ

レンド店さんの協力のもとに、この夏、三回にわたってオートキャンプ、ボートディング、水上スキー教室、トライアル教室、安全運転コンテストなど、多彩な行事をもちこんだSLツーリング大会を開催し、多数のお客さまから好評を博しました。

この企画は、夏の短い北海道にあつてSL行事をいかに展開していくかのモデルケースとして実施されたもので、第一回は七月二十二日・支笏湖で、第二回は八月十八日、十九日の二日間にわたって網走で、第三回は九

月一日、二日の同じく二日間にわたって洞爺湖を会場にして行なわれました。

第二回の大会では、夏の北海道ではめずらしいほどの悪天候で、大雨注意報も出たほどですが、このような悪コンディションにもかかわらず三十名が参加して挙行されました。

悪天候も終つてみれば楽しい思い出、やはりスポーツレジャーは体験したものではないかぎり、その楽しさ、魅力はつかみかたいもの。この夏の経験を来シーズンに生かしてさらにユニークなSL活動を展開しよう、関係者は多くの収穫をおさめたのでした。

(写真は第一回の「支笏湖ツーリング&ボートディング大会」と、第三回の「洞爺湖ツーリング&ボートディング大会」より)



は楽しいSLミーティング。



つづいてトライアル教室。オートバイのもつ新しいスポーツの世界を知って楽しさ倍増。



こちらはトレール教室。ベテランのライダーも初心にかえって運転技術の基礎を再確認。



大、中、小、ミニあり、スポーツありのツーリングもまた一興。路端に停めて小休止。



仲間がそろって和気あいあい、きょう



陸に、水に、楽しいSL行事の展開にしばし時の過つのも忘れた様子。冬には雪中モトクロスやスノーモビル教室の開催も考慮中。



今度はボートです。ボートは初めてという人も多く、もっとも人気があった。

オフ・ロードスポーツ熱上昇 || オーストラリア ||



気の遠くなるような広大な丘陵地帯を会場にして開かれたモトクロス。

遠くて近い国オーストラリアからのニュースです。

元世界チャンピオンのK・キャラザース（現在ヤマハイインターナショナルの整備主任）とか、今年のシリーズで活躍したJ・ドッズ（ヤマハ）などに代表されるようにこの地域は以前からロードレースがさかんでしたが、モトクロス、トレールランなどオフ・ロードのオートバイスポーツも年々さかんになってきています。

ひたすら広いという感じのオーストラリア大陸では、オートバイを乗り廻す場所には事欠かないし、地形、目的にぴったりのマシンがオフ・ロードライディングの楽しさを満喫させるのです。

写真は、メルボルン近郊の砂漠で最近行なわれたビッグモトクロスとラリー。

モトクロスの参加者は約三百人に達しましたが、ヤマハMX360、MX250のライダーが最も活躍しました。

また、さながら耐久レースのような砂漠横断ラリーでは、トレール360、250がタフで安定した性能を発揮して上位に入賞しました。



こちらはスタンタードのトレール車が活躍したラリー。

ラリーといっても、ときにはこのようにモトクロッサーなみのチューンでタイムを競うこともある。



かすかずの難コースに、日頃のウデを競いあうベストライダーたち。



女性部門には、S.Lレディも参加。

ベストライダーは ヤマハが好き 二輪車安全運転第六回全国大会

安全運転の「実力日本一」を決める二輪車安全運転第六回全国大会が、八月二〇日、全日本交通安全協会、二輪車安全運転推進委員会の主催のもと、東京・警視庁府中運転免許試験場で開かれました。

北海道から沖縄まで、全国の地区大会を勝ち抜いたベストライダーばかりが集まり、屈曲した一本橋コース、坂の途中の8の字コースなど、むずかしい課題に挑んだ結果、団体

では兵庫県チームが優勝しました。また、女性部門、高校生部門、350cc以下部門、351cc以上部門の個人チャンピオンもそれぞれ誕生しましたが、四人のチャンピオンのうち三人までが、ヤマハを駆って出場した選手でした。

また、競技終了後には、二輪車安全運転推進委員会の特別指導員による模範走行もあり会場をわかせていました。

勢ぞろい

ヤマハ汎用エンジン

新しい動力源として、さまざまな作業場をはじめ、スポーツレジャーに、家庭用に巾広く活躍している「ヤマハ汎用エンジン」は全8機種。いずれも持運びのよさで、すぐれた機能で抜群の人気を得ています。

ここにヤマハ汎用エンジンあり

●スポーツレジャー・家庭用で——レーシングカート、娯楽用カート、遊園地の乗物、キャディカー、芝刈機、スプリンクラーなど。

●土木建設作業・軽工業で——ゼネレーター、吸排水ポンプ、コンプレッサー、小型ウインチ、ランマ、レールローダー、ベルトコ

ンベアーなど。

●農林業・漁業で——船外機、融雪剤散布機、のり摘機、草刈機、動力噴霧機、コンバイン、バインダー、モノレール、動力三輪車、穴掘機など。



高出力から低出力まで 思いのままのパワーを創造

取扱いやすさで定評のある2サイクル・エンジンが生み出す余裕のハイパワー。改良ポイントを始め、ヤマハ独自の吸排気機構の採用が低速時の性能を効率よく引出します。

しかも、クランク軸回りの慣性モメントを十分にとっていることで、急激な負荷の変化にもコンスタントに対応し、その粘りづよさはまさに抜群です。

また、この「ヤマハ汎用エンジン」にはハイシリコンピストン、キーストンリング、各種ベアリングなど、選りすぐりの高品質部品を適所に使用し、無類の耐久性能を持たせて苛酷な使用条件に対処させています。

らくらく始動、静粛運転で 作業能率をスピード・アップ

汎用エンジンとして、初めてスターター付キャブレターを装備。点火性能にすぐれたC.D.I.マグネトーの採用とあわせて、始動は寒冷期でも一発です。またマグネトー式も、ポイント部分はゴミや汚水をシャットアウトするカバータイプで保守が容易です。

始動時のロープ巻上げ操作を省いたリコイル式スターターは、もちろん標準装備。静かな排気音をつくりだす一体式のマフラーと共に作業能率を大きく向上させます。そのほか注入しやすい燃料タンク、ひと目で分かる燃料残量計など、完璧な機能設計で各種作業の進行に威力を発揮します。

扱いやすさを重視した 軽量・コンパクトな設計

「ヤマハ汎用エンジン」は、取扱いやすさを重視して開発した軽量・コンパクト設計で好評を得ています。持ちはこびのしやすさでここぞというチャンスを逃しません。

BM型キャブレターの働きは、左右50度の傾斜運転をこなし、また運転に関する各種操作機器は片面集中方式とし、取扱いやすさにプラス見やすさを加えています。

遠隔操作が出来るアジャストレバーを装備したモデルのほかに、遠隔操作用スロットルワイヤー、逆転用カム、点灯コイルなど、使用範囲をさらに大きく広げる各種オプションパーツも用意されています。

陸に、水に、雪に楽しいスポーツレジャーを生み、精力的に働くヤマハ、YAMAHA。みなさまおなじみの、あるいは初めてのヤマハをここに紹介します。お客さまのお話のネタとしてどうぞご利用ください。

力強いパワーを生む万能タイプです

MT110Am



減速機付シリーズの標準タイプとして幅広い用途を誇るエンジンです。低速性能もバツグン。

プロも舌をまく粘り強いパワーです

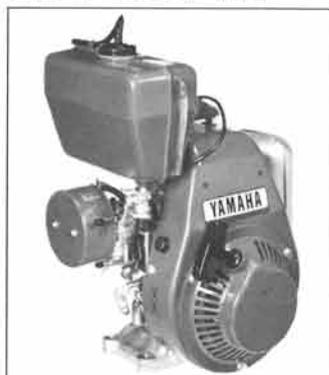
MT110Gm



減速機付だからハードな作業でも緩急自在に使えるのが魅力。リモコン用アジャストレバーは標準装備。

ハイパワーに豊かな機能性をプラス

MT110Fm



燃料漏れを防ぐ独特のV型タンクリモコン用アジャストレバーの採用で傾斜地での作業に威力を発揮。

高速性能がひときわ輝く自信作

MT110DDm



直結型シリーズの標準タイプとして、高速性能が要求される用途にはかかせないエンジンです。

高速性能に数かずの機能性をプラス

MT110DFm



高速性能の直結タイプにV型タンクリモコン用アジャストレバーを装備した完璧な“機能設計”です。

ユニークなバーチカルエンジンです

MT110V



垂直クランク軸を採用したバーチカルタイプ。C.D.Iマグネターの採用で点火、始動はよりスムーズ。

サイズはミニでも性能は威力十分

MT100DDm



コンパクトなボディに秘められた高性能はMT110DDmゆずり。利用価値の高いエンジンです。

ヤマハの技術がキラリと光ります

MT100DDc



サーキット用レーシングカートを始め高速性能が要求される用途に最適。点火はもちろんC.D.Iマグネター。

項目	MT110						MT100		項目	MT110						MT100		
	Am	Gm	Fm	DDm	DFm	V	DDm	DDc		Am	Gm	Fm	DDm	DFm	V	DDm	DDc	
最高出力	4.3/2428ps/r.p.m			4.3/5000ps/r.p.m			4.0/5000ps/r.p.m		点火方式	フライホイールマグネター						C.D.I マグネター	フライホイール マグネター	C.D.I マグネター
常用出力	3.0/1845ps/r.p.m			3.0/3800ps/r.p.m						エアリーナー	乾式							
最大トルク	1.4/1700kg.m/r.p.m			0.68/3500kg.m/r.p.m			0.64/3500kg.m/r.p.m		ガバナー	遠心重錘式								
燃料消費率	370gr/ps.hr.						380gr/ps.hr.		燃料タンク容量	3.25ℓ	2.7ℓ	3.25ℓ	2.7ℓ	3.25ℓ	3.25ℓ	3.25ℓ		
種類	強制空冷2サイクルガソリン機関								減速機	付き(減速比2.06=35/17)						なし(直結タイプ)		
シリンダ数	直立単気筒			水平単気筒			直立単気筒		回転方向	左(出力取出軸に向けて)								
総排気量	106cc						98cc		出力取出軸の形状	20φ×38mm(直径×長さ)			17φ×38mm(直径×長さ)					
内径×行程	52×50mm						50×50mm		長さ×幅×高さ	339×352×446mm	339×352×464mm	327×352×446mm	327×362×464mm	405×362×371mm	327×352×446mm			
圧縮比	6.8						6.1		乾燥重量	16.2kg		15.0kg	15.2kg		15.0kg	14.3kg		
潤滑方式	混合ガソリン 25:1								★この仕様は予告なく変更する場合があります。									



メーカーチャンピオン獲得

モトクロス世界グランプリ 250ccクラス

ロードレース世界グランプリ 125cc、250cc、350ccクラス

'73モトクロス世界グランプリ、'73ロードレース世界グランプリの二大世界選手権レースで、ヤマハ4クラスのメーカーチャンピオンを獲得!!

世界のモーターサイクルスポーツ史上にまたまたヤマハの新しい記録がつけ加えられました。モトクロス、ロードレースの2大グランプリに4クラスのメーカーチャンピオンを獲得したのです。この輝かしい成果は、とうぜん市販車のすべてにおよぶものであり、ヤマ

ハ技術陣の大きな誇りとするところでもあります。しかしヤマハはこの成果に満足することなく、さらに新しい技術開発を求めて、高品質・高性能ヤマハをもって販売店のみなさま、ユーザーのみなさまにご奉仕する所存です。どうぞご期待ください。

